

**分析**

# 消費者選好の定量評価

— 表明選好法の応用 —

農食環境学群 / 循環農学類 / 食料経済分析学研究室

**佐藤 和夫**

[ Kazuo Sato ] 教授 [ 博士(農学) ]

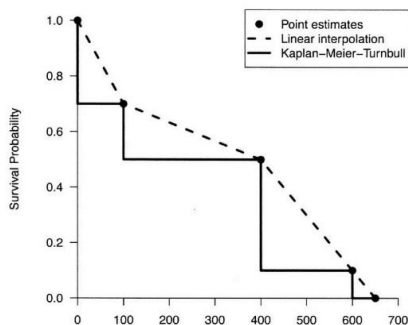

**● 研究の概要**

安全性を高めた新食品に、消費者はどれだけのプレミアを払ってもよいと考えるだろうか。良好な環境を維持するために、市民はどれくらいの負担を許容するか。こうした消費者や一般市民の選好について、仮想評価法や離散選択実験などの「表明選好法」と総称される一連の手法を用いて定量的に分析している。

**● 研究の内容・特徴**

新たな付加属性を与えられた食品に、消費者はどのくらいのプレミアを払うのか。農業・農村の多面的機能を守るために、一般市民はどのくらいの負担を受け入れるのか。これらは経済学用語でいう「最大支払意志額(WTP)」を求めるという問題である。

たとえば「この新商品に消費者はいくら払うか」を知りたい場合、「いくら払いますか」と金額を直接たずねることもできる。しかし、一般の消費者は値付けという行動に慣れていないため、回答の信頼性が低くなってしまふ。そこで、ある価格を提示して「この価格なら買いますか」と質問する二肢選択型の仮想評価法が用いられる。提示する価格を何段階か用意し、回答者ごとに変えることで、価格ごとの支払確率や平均支払意志額を算出することができる(図1)。複数の属性を持った商品について、属性ごとの評価額を知りたい場合は、離散選択実験が用いられる。離散選択実験の質問では、属性の異なる複数の商品を提示して、そこから「いちばん買いたい商品」を選んでもらう(図2)。属性の組み合わせを変えながら、各回答者に複数回の質問をすることで、属性ごとの評価を分析することができる。いずれの手法でも、年齢や性別、経験、認識といった、回答者属性との関係を分析することも可能である。



筆者も開発に関わったRプログラムによる、仮想評価法の分析結果例。金額(価格)と消費者が受け入れる確率の関係を示している(Aizaki et al. 2014より)。

図1. 仮想評価法の分析例

店頭で以下の3種類のお米が売られていたとしたら、あなたはどれを購入しますか？

番号	1	2	3	4
品種	茨城産 コジヒカリ	道内産 きらら397	秋田産 あきたこまち	
市町村名・ 生産者名の表記	なし	市町村名まで 明記	生産者名・市町 村名を明記	この中では どれも 買わない
栽培方法	通常の栽培方法	減農薬・ 減化学肥料	無農薬・ 無化学肥料	
価格	3,480円 (10 kg) 1,740円 (5 kg)	3,480円 (10 kg) 1,740円 (5 kg)	4,980円 (10 kg) 2,490円 (5 kg)	

離散選択実験の質問例。この例では、属性の組み合わせを変えながら、各回答者に8回の質問をおこなっている(佐藤他 2001より)。  
属性の組み合わせは実験計画の手法を用いて決定している。

図2. 離散選択実験の質問例

**● 用途・応用例**

- ・安全性を高めた食品に対する消費者評価の計測
- ・新たな機能性食品に対する消費者評価の計測
- ・政策ニーズの把握
- ・
- ・
- ・

**● アピールポイント**

仮想評価法や離散選択実験などの表明選好法は、農業や食品分野だけでなく、環境問題、医学、健康科学、政治学、文化資産など、幅広い分野で用いられている。新たな分野での適用も含め、表明選好法の利用にあたって必要な、方法の選択、アンケートの立案、データの分析などについて、共同研究のご相談をいただければと考えている。

**● 本研究に関連する知的財産**

発明の名称：

特許番号：

**● 研究室のホームページ**